


NO! リニア

No. 1 4 8

2022年 8 月 23 日

J R 東海労働組合

J R 東海労 H P
にアクセス 



大井川水問題パンフは問題だ！ ③

「水は減らないように」とは、 逃げ道なのか？！

大井川水問題パンフ（以下、水パンフ）の質問 1 は、「工事により、大井川を流れる水の量は減りませんか？」です。答えは「トンネル内に湧き出る水を大井川へ戻すことで、中下流域を流れる水の量が減らないようにします」と書かれています。その方法（対策）は導水路トンネルをつくり、導水路トンネル完成までは、トンネル内の湧き水はポンプアップとしています。

しかし、その対策は確実性があるとは限りません。なぜなら、対策が具体的でないと言えるからです。「水の量は減りませんか？」の質問に対して「減りません」と明確に回答していないことから、その部分は曖昧にしています。「減らないようにします」とは、いわば逃げ道ではないでしょうか。

ポンプアップする場合、ポンプの規模は、また何台必要か、ポンプの電源はどうするのか、湧水量が想定より多い場合の対策はどうするのか等、具体的なことは検討されているのでしょうか。「想定外で水は全て戻せなかった」ということはあつてはいけないことです。

また、「掘削完了数十年以降もトンネル内の湧水を戻す」と、水パンフには説明されていますが、湧水が 30 年続くのか 50 年続くのかは分かりません。リニア実験線の工事による河川枯渇が問題となりましたが、水の保証は 30 年とされ、それ以降の保証はないとされています。泣く泣く、果樹園を廃業する農家があります。仮に、大井川の湧水戻しが 30 年以上続いた場合、それ以降の保証は分かりませんし、J R 東海が「保証しない」となれば、地元の負担になることは目に見えています。

更に、導水路トンネル出口から上流側は川に大量の水が流れないため、動植物等の生態系を狂わせることとなります。その対策もハッキリしていません。

リニアに限らず、道路建設工事等によっても、河川枯渇問題は各地で起きています。この問題が解決しないということは、湧水の全量戻しの技術（枯渇対策）は確立されていないということです。

小さな川が枯渇している中で、はるかに大きな大井川の枯渇対策は果たして可能なのでしょうか？「何とかなる」では遅いのです。